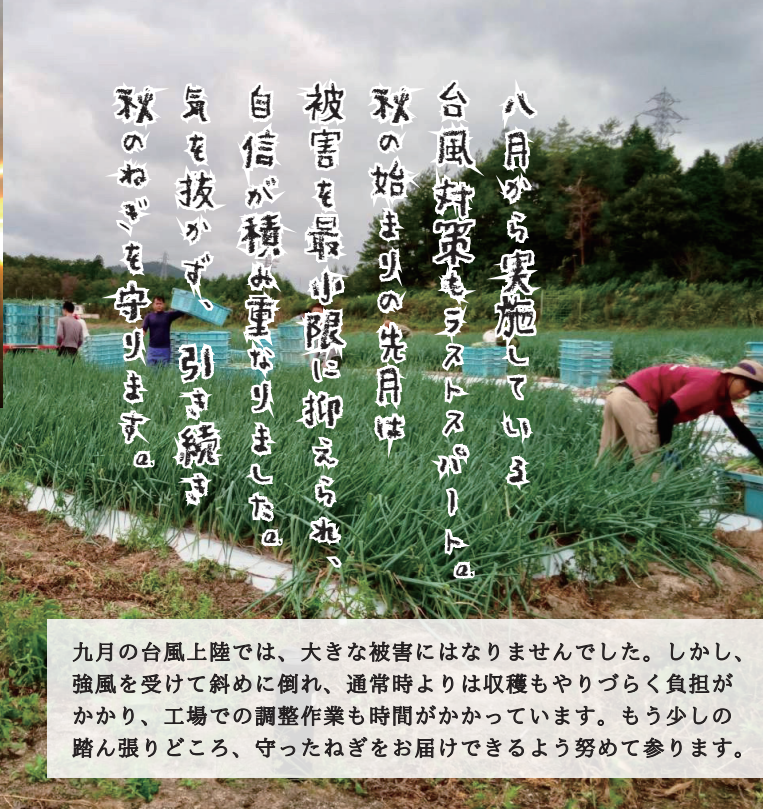


落照

らくしょう

夕日の光、落日の輝き、沈んでゆく太陽のこと。1日がゆっくりと終わりに近づいてゆく様子。夏の季節とはまた違って、落ちていた夕焼けの空色を感じます。

これからの秋から冬に向けて移りゆく京都市内の産地の落照。農作業を終え、ふと見上げた夕焼けの空にいつもほっとします。



八月から実施していき、台風対策もラストスパート。秋の始まりの先月は、被害を最小限に抑えられ、自信が積み重なりました。気を抜かず、引き続き秋のねぎを守ります。

九月の台風上陸では、大きな被害にはなりませんでしたが、強風を受けて斜めに倒れ、通常時よりは収穫もやりづらく負担がかかり、工場での調整作業も時間がかかっています。もう少しの踏ん張りどころ、守ったねぎをお届けできるよう努めて参ります。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

生命力溢れる、丹後・美山の秋葱のお届け

7~8月にかけて、一度成長したねぎの株（根本）だけを残してカット収穫し、もう一度生育させたねぎのお届けが多くなっています。早ければ約2ヶ月で収穫できるものに生育しますが、カットした根本の面の消毒や、暑い時期を過ごす為にこまめな追肥作業などのケアが必要。夏の猛暑と合間に雨が降ることにより、畑が蒸されて腐ってしまうなど、二作目を取ることができない株が多い年でした。夏を過ごし、農人たちの心遣いを受けた、生命力の強さを感じられる秋葱です。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信

台風対策の実践と冬作に向けて

9月は毎週台風上陸という異例の年でした。ここ数年、これまでの経験が役に立たないことも出てきて、農人たちも悩まされています。そんな中でも、台風に対しては今年もしっかりと対策を行うことができました。台風における、畑のねぎたちにとっての一番の敵は風です。風速 10m/s 以上になると確実に倒されてしまいます。ねぎが倒されないようにと、台風 14 号の際は丹後の圃場に 25 名近く集まり、皆で事前対策を実施。そのおかげで、対策したねぎは倒れませんでした。時間も限られた中、対策を全てのねぎにすることは難しく、できなかったねぎは倒されてしまいました。台風で倒れたねぎは根本を残してカット収穫し、次は収穫できるようにと、改めて世話をしていくことになります。



台風対策もした畑はなんと守れました!



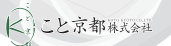
台風上陸までに、畝ごとに「タフバンド」を巻いて事前対策

また、9月から10月にかけては、冬葱準備に向けての作付けピークです。気温も落ち着いてきて、作業がしやすくなりましたが、農人が作業しやすい季節は、害虫も活発になる季節でもあります。台風対策・収穫・作付け・防除と1年の中でも一番忙しい時期。日が落ちるのも早くなり、帰る頃には真っ暗になっているとある日の農人日記。
一斉収穫最終日。疲労もありましたが、それ以前に楽しく作業出来ました。応援に来て頂いた方々とも一緒に作業ができたです。初めて一斉収穫に参加し、団結を感じました。(丹後エリア・吉田)

ことねぎだより

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

NO.185
2022年10月号
TEL: 075-601-0668



こと京都市「野菜を食べよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組みます。